

♪ 2016年度

poco a poco

♪

Nr. 11

2016年11月4日(金) 文責: プファイル・辰巳

枯れ葉舞う11月

冬時間になりました。すっかり日暮れが早くなってしまいましたね。美しく色づいた樹々の葉っぱを眺めるのは格別ですが、それがすっかり散ってしまうと、あの長くて暗い冬がやってくるのかと思うと、ちょっと悲しいですね。



でも、秋から冬は「コンサート・シーズン」。オペラにクリスマスコンサート、バレエなど楽しみもあります。秋・冬の夜長、みなさんもすてきな音楽をたくさん楽しんでくださいね。

音楽こぼれ話 <あの町、この町、音楽家が住んだ町 ⑥

Lutherstadt Wittenberg>

先日(10月31日)は宗教改革の日でした。1517年のこの日、宗教改革家として有名なマルティン・ルターが95か条の論題を提示したことから、この日が定められました。来年はちょうど500周年になります。

さて宗教改革家としては誰もが知っているルターですが、実は、彼は教会音楽家としてもなかなかの実力を持っていたそうです。歌う声は美しく、フルートやリュート(ギターの前身)などの楽器も得意だったそうです。また礼拝で歌われる曲の歌詞や作曲も手掛けており、彼の作品は、現在の讚美歌集の中にもいくつか収録され、歌い継がれています。後の大作曲家バッハもルターを尊敬していたそうで、ルターが作曲した讚美歌のメロディを元に、カンタータ「われらが神は堅き砦」(BWV80)を作曲しました。この曲は現在でも好んで演奏されるバッハの作品の一つです。

そしてルターが「95か条の論題」を提示した Schlosskirche (城教会)がある町が **Wittenberg** です。ヴィッテンベルグはこれまでに紹介してきたライプツィヒやハッレとベルリンの中間あたりに位置する旧東独の町です。

ルターは、同じく旧東独の町で、ハッレのすぐ北西に位置するアイスレーベンという町で生まれ、最期もこの町で迎えるのですが、この二つの町(アイスレーベンとヴィッテンベルグ)に現存するルター記念建造物群は、合わせてユネスコの世界遺産に登録されています。

ルターはアイスレーベンで生まれましたが、生後9か月で引っ越ししてしまいました。残っている生家は17世紀末に再建されたものだそうです。最期を迎えた家は当時のまま残されており、書簡や肖像画などルターにゆかりのある品々が展示されているということです。ただし、こちらの家にも、ルターが住んだのはほんの1か月ほどだったそうです。

一方、ヴィッテンベルグの方は、学生時代から住み始め、大学で教えるようになり、結婚して家族を持った後、1546年にこの世を去る直前まで、ルターはこの町に留まっていた。こちらには、ルターが宗教改革後、説教を行っていた市教会(Stadtkirche)、95か条の論題を張り出した城教会(19世紀に再建された Schlosskirche)、現在は博物館として公開されているルターハウス(ルターが住居として使っていた建物)などが残っています。その他にもルターと同時代の宗教改革者メランヒトンが住んでいた家や、16世紀からの長い歴史をもつヴィッテンベルグ大学の建物など、見どころはたくさんあります。

来年の10月31日は、宗教改革500周年を記念して、ドイツ全国が特例の祝日になるそうですし、ヴィッテンベルグをはじめとして、ルターゆかりの町では、2017年に様々な催しものも計画されているようです。どこかでルターの音楽作品を耳にされる機会もあるのではないのでしょうか。

ほんのちょっとだけ 演奏会情報



聖カタリーネン教会(ハウプトヴァッヘ)の コンサート情報

- 11月20日(日) 18時から
「タベの音楽」: レーガーのオルガン曲、声楽曲ほか
- 11月27日(日) 18時から、
12月11日(日) 18時から、 両日ともマルティン・リュッカー氏によるオルガンコンサート
(バッハの作品)
- 12月26日(月) 18時から トランペットとオルガンによる
クリスマス音楽